

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：一級河川湯川における多自然川づくりについて		
水系/河川名：信濃川水系(一)湯川	河川分類：中小河川	
河川の流域面 212	整備計画流量：420m ³ /s	セグメント：0
事業：河川改修	事業開始年度 平成24年度	
目標設定：なし	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：水辺へのアクセス改善		
工法(主な)：護岸整備、階段工の整備		
配慮事項(主な)：多自然川づくりのアドバイザー制度の活用		

背景・課題、目標設定

<背景>

当該箇所においては、産業廃棄物が放置されていたが、県・町・地元住民の負担により撤去され、「豊昇ふるさと公園」として整備された経過がある。また、地元区、町より公園整備に併せて護岸整備が要望されていた。このことから、地域の特色を活かし、人が集う魅力ある場所としての河川整備が求められた。

<課題>

整備箇所、公園の施設整備等による利用促進

<目標>

「豊昇ふるさと公園」と地域の川「湯川」が交差・融合
人と自然(水)が出会える場となる公園から連続した川辺を整備



御代田町が管理する「豊昇ふるさと公園」



整備着手前

取り組み内容・対策例(1/2)

「湯川いい川づくり」整備までの流れ

1. 情報収集 ・治水目標、地域情報、河道形状、地質等
2. 現地踏査 ・保全すべき環境特性等の確認
3. 目標設定 ・整理した情報から目標(案)を抽出
4. 具体化 ・目標達成のための採用案を決定



詳細設計の基本情報



地元漁業協同組合から意見聴取



地元区から意見聴取



有識者から意見聴取、現地踏査

目標設定・具体化

「豊昇ふるさと公園」と地域の川「湯川」が交差・融合
人と自然(水)が出会える場となる公園から連続した川辺を整備



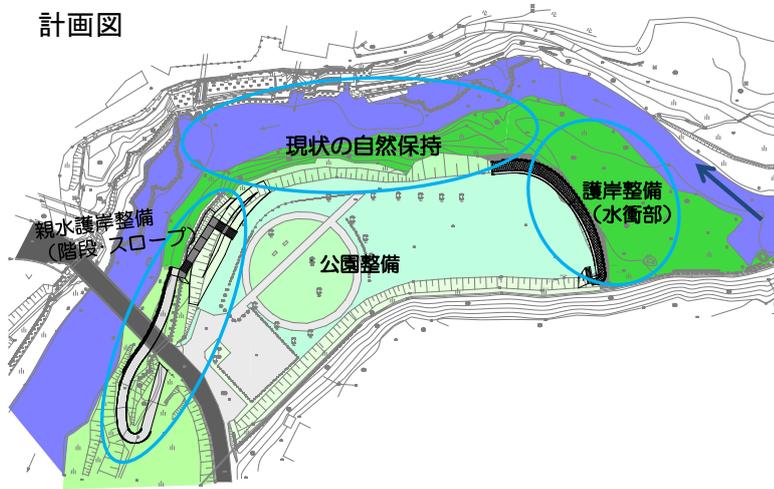
河川から公園へ連続性を持たせることにより、河川、公園、広戸橋を一体化した環境

取り組み内容・対策例(2/2)

<整備状況>

- ・上流部は水衝部ため、護岸整備、中間部は現状の自然を保持、下流部は親水護岸整備を行った。
- ・親水護岸整備として、広戸橋を上下流で結び、上流側は階段、下流側はスロープを整備。

計画図



整備状況①



整備状況②

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<モニタリング調査結果>

- ・調査方法
河川空間利用実態調査
アンケート調査



放流日の釣り客



親子連れの水遊び



車イスの犬の水遊

・調査結果

釣り客が増加。放流日には100人前後集まる。階段・スロープ整備により、釣り初心者も集まる
スロープが整備されたことにより、子供連れ親子や車イスの方が川とふれあいに訪れた。

<今後の対応>

- ・草刈り等維持管理
- ・モニタリング調査より、整備箇所付近には湧水池、トラウトパークがあり、利用者が多いことが判明したため、これら施設を一体とした利用を促進させるサイン計画を検討したい。



備考